



# 防災だより 2024 年 03 月号

第 41 号  
令和 6 年 03 月 01 日発行 関ヶ谷自治会 防災部/防災ボランティア・グループ  
☆対策本部支援チーム☆情報・配給支援チーム☆救助・補修支援チーム☆企画部 自治会館 ☎784-4447

## 地震・雷・火事・親父

### ～新年の祝いが暗転した能登半島地震～

記事・写真はネットニュースや各新聞等の記事などから転載等で編集しています。



地震・雷・火事・親父、親父の怖さはさておき、このフレーズは誰しも聞き覚えがあると思います。昔から世の中の「怖いモノ」の順番を表した諺です。その一番怖い地震が元旦に能登半島を襲い、大きな被害が出たことは既報の通りです。

令和 6 年 1 月 1 日 16 時 10 分に石川県能登地方でマグニチュード (M) 7.6 (気象庁暫定値) の「令和 6 年能登半島地震」。石川県の志賀町で震度 7 を観測するとともに、沿岸域では津波も観測され、広い範囲で被害が生じました。2 月 19 日現在の被害状況は下表の通りです。**死亡原因の第一位は家屋倒壊により「圧死」**です。日本法医学会が、輪島市 64 人、珠洲市 56 人、穴水町 11 人の計 131 人の死因などを調べた結果、**家屋の倒壊による圧迫が 88 人で最も多く、67%を占めた**。胸などを圧迫された人が目立ったほか、窒息した人もいたとのこと。因みに、阪神大震災の際に犠牲者の死因調査にあたった西村明儒・徳島大教授によると、阪神大震災で**神戸市内で亡くなった人の死因は、建物倒壊に伴う窒息が 53.9%を占め、圧死が 12.5%で家屋倒壊による死者割合は 66.4%**となります。

【2 月 19 日現在の能登半島主要地区の被害状況】

地域	死者	住家被害	断水
輪島市	103 人	4,333 棟	10,000 戸
珠洲市	102 人	7,196 棟	4,800 戸
穴水町	20 人	3,771 棟	1,200 戸
能登町	8 人	5,000 棟	3,900 戸
七尾市	5 人	13,550 棟	9,200 戸
志賀市	2 人	1,484 棟	1,290 戸
羽咋市	1 人	2,345 棟	-----



改めて**地震の「怖さ」を再確認**してください

2022 年に防災 V G が行った関ヶ谷地域の耐震化状況のアンケート調査では、グラフ 1 の通りで、耐震済みが 41.6%ですが、**耐震不足 8.7%、耐震診断・耐震改修等する予定なしが 30.5%**となっていて地震による倒壊等の被害が危惧されるどころです。また、家具等の転倒防止対策は備えグラフ 2 の十分と普通を合わせて 56.4%で半分を上回っていますが、**38%の世帯が不足又は備え無し**となっています。

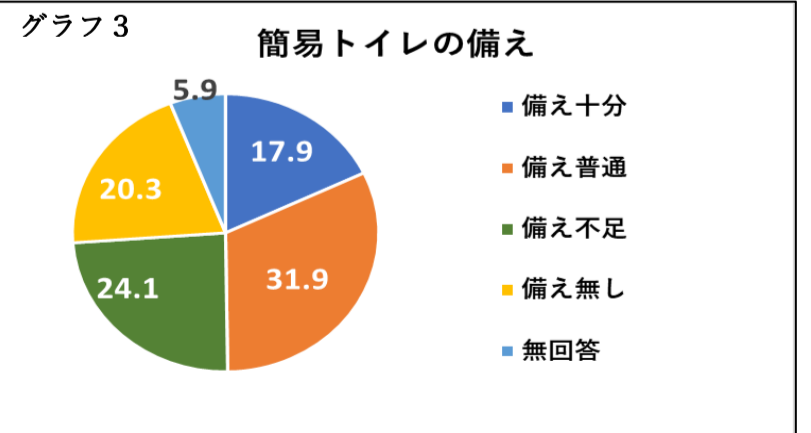
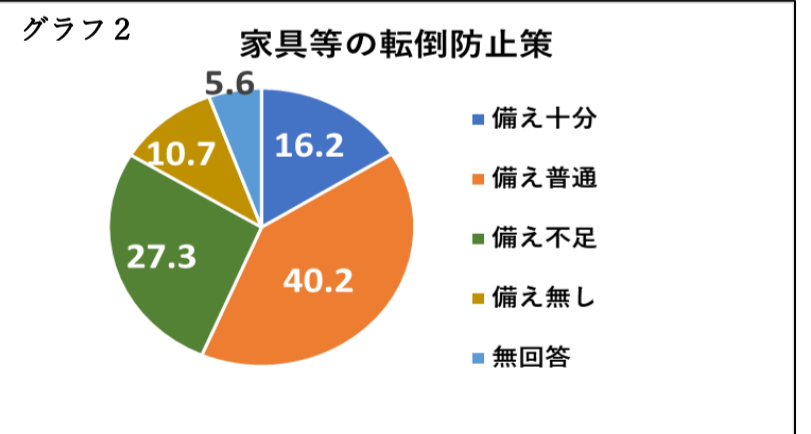
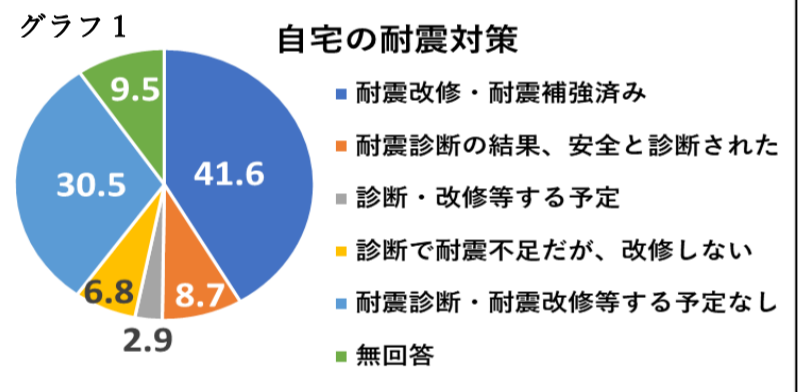
能登半島地震で毎日のように報道されていたのが「水」と「トイレ」です。表にあるように発災から 1 か月と 20 日経過しても約 3 万 390 戸が断水のままだけで、汚れて使いたくない、タンクが満杯で使えない、など切実な状況になっています。日本トイレ研究所の加藤篤代表理事は、**災害発生 6 時間以内で約 7 割の人が用を足したくなる**とされ、トイレは「**水、食料より先に必要になる**」と。熊本地震で避難所生活者の「**困りごと**」を聞いたところ第一位が「**眠れる環境 66%**」**第二位が「ト**



東京新聞より転載

**イレ 62%**」、第三位が「**食事 50%**」となっています。食事はある程度我慢が出来ますが、トイレは我慢がききません。したがって**トイレの備えは最優先して備蓄しておくことが必要**です。日本トイレ研究所では、携帯トイレ (簡易トイレ等) の備蓄は 7 日分を推奨し、最低 3 日分は必要としています。関ヶ谷地域の**簡易トイレの備えは、グラフ 3 の十分+普通合計 49.8%で 5 割を下回っている状況**です。自分や家族が 1 日どれくらい使うかを事前に知っておくことも大事です。**一日 5～6 回×家族人数×備蓄日数=必要備蓄量**になります。地震から逃れることはできません。しかし、備えはできます。その意味で**備えの「大切さ」を我が身に置き換えて「備えは十分だよ」と回答できるようにしてください**。

珠洲市三崎町寺家 (じけ) の下出 (しもで) 地区は、高さ数メートルの津波が襲ったが帰省中や初詣客も含め約 180 人全員が無事だった。地震発生時は、住民は荷物を持たずに**自発的に避難を開始**。近所の人に声をかけたり、若者が足の悪い女性を背負ったりして、標高 23 メートルにある下出集会所を目指して坂道を上った。揺れから 5 分余りで住民ら約 180 人が集会所付近に集まってきた。普段は 35 戸 90 人余りが暮らす**地区では毎年 1～2 回、津波からの避難や火災を想定した防災訓練を開いてきた**。「東日本大震災を機に、改めて津波への意識が高まった」と。合言葉は「いざとなったら集会所」だった。**毎年行う避難・安否確認訓練への参加も近助力であり自助力で、その「重要さ」をしっかりと認識することです**。



# 「横浜市避難ナビ」を使ってみては!?

～横浜市が提供する防災ポータルアプリです～

「横浜市避難ナビ」は、一人ひとりの避難行動を平時である「いま」から災害時である「いざ」まで一体的にサポートするアプリです。

- ✓意識の醸成：  
AR (Augmented Reality) の略。「拡張現実」を活用し浸水時の疑似体験ができる
- ✓事前の備え：  
ハザードマップや避難所の確認、今いる場所の危険性を自動判定し、マイ・タイムラインの作成ができる
- ✓避難行動の支援：  
災害時には、マイ・タイムラインと連動した避難情報がプッシュ通知され、開設している避難場所やルートが確認できる

災害や避難行動の重要性に対する意識を醸成するところから、マイ・タイムラインの作成、避難所や避難ルートの確認、さらには災害時の避難行動の支援まで、平時から非常時、まさに「いま」から「いざ」まで、一体的に市民の皆様の避難行動を支援することが、横浜市避難ナビの大きな特徴です。

横浜市となっていますが、避難情報や避難所情報など全国の情報が得られます。例えば、旅行で他県にいた時に大地震が発生し避難所に行く必要が生じた場合、このアプリを使えば所在地の近場の避難所が表示され、避難所までのルート案内も確認できる、とても役立つアプリです。

平時には、AR によって浸水状況を疑似体験したり、ハザードマップや避難場所等を確認し、一人ひとりの避難行動計画であるマイ・タイムラインを作成できる機能があります。

災害発生時には、「災害時モード」に切り替わり、マイ・タイムラインと連動した避難情報のプッシュ通知を受信し、開設している避難場所を確認したうえで避難場所等までのルートを案内する機能があります。

紙媒体の方が分かりやすいという方もいれば、モバイル端末の方が慣れているという方もいらっしゃいます。ご自身にとって使いやすいツールでかまいませんので、一人でも多くの方にマイ・タイムラインを作成していただきたいと思っています。

また、「避難ナビ」アプリには AR 機能に加え、動画やクイズにて学べる学習コンテンツも含まれています。



【iOS 版】 iOS 版ダウンロードリンク (外部サイト)



【Android 版】 Android 版ダウンロードリンク (外部サイト)

## 出会いの場になった四年ぶりのどんど焼き

民生・児童委員 二地区 乙川 さよ子

2024年辰年、明けましておめでとうございます。

新年明け早々に四年ぶりのどんど焼きが行われました。関ヶ谷和太鼓のみなさんのハッピーを纏った粋な姿で迫力ある演奏から始まり、お飾りの燃える炎を見つめながら地域の皆様の無病息災を祈りました。



久しぶりにお会いした人達がお神酒を飲みながら談笑する様子、すれ違ったお友達と新年の挨拶からお互いの健康を気遣う様子、そして民生委員として訪問見守りの方々の元気そうな様子を見て、とても穏やかな気持ちになりました。

また、子供たちがお菓子のプレゼントをもらって“ニッコリ”する笑顔や竹細工で作った竹ぽっくりや竹馬で遊んでいる様子は、こんな機会でもなければ出会えない、見られない“素敵”なイベントだとつくづく感じます。

人間どうしの絆を大切に、気付きの心を持ち、これ

からも微力ではありますが民生委員活動を続けていきたいと思ひます。今後も民生委員活動に対してご協力、ご支援宜しくお願い致します。

